

13年目を迎えた石川県漁業士会活動

—— 提案します 今のままでは今のまま 変える 変わる 12年の歩み ——

石 川 県 漁 業 士 会
会 長 木 戸 信 裕

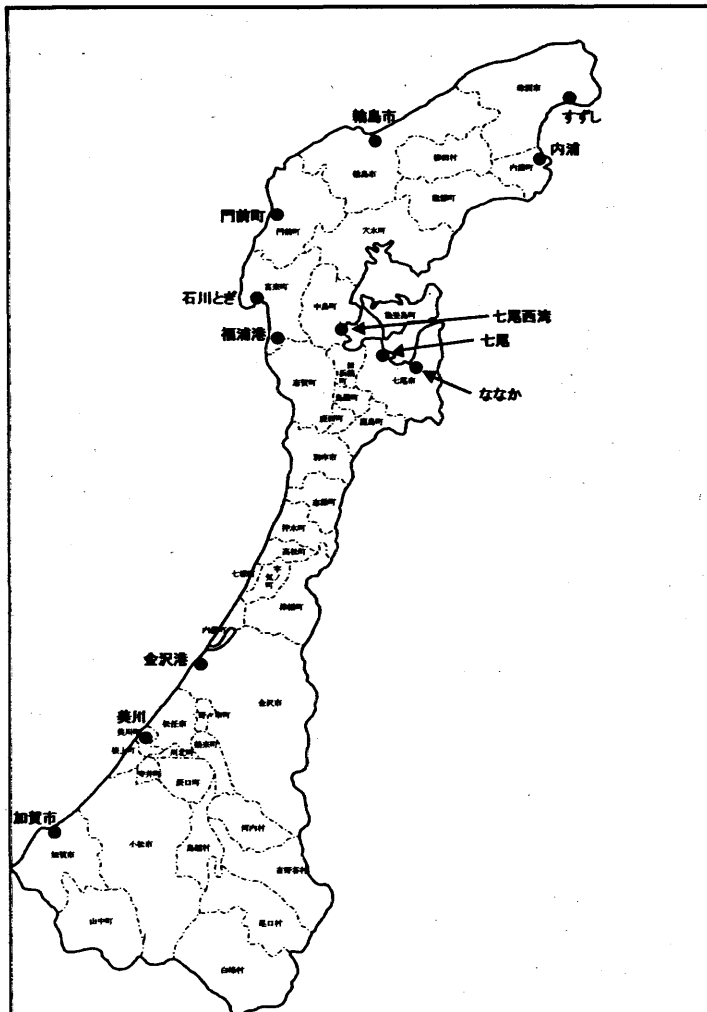


図1 漁業士会員の所属漁協位置図

1. 地域の概要

石川県で漁業士が誕生したのは、昭和61年度に青年漁業士2名、指導漁業士2名が初めて認定を受けたのが始まりである。以来、昭和62年度以降も「漁業士」育成事業が実施され、平成2年8月25日、漁業士同士の密接な連絡、研鑽を通して、相互の理解を深めるとともに、石川県漁業の中核者としての資質向上を図ることを目的に、「石川県漁業士会」が結成された。平成14年12月現在、青年漁業士24名、指導漁業士49名の73会員を擁し、会員が所属する漁協も、加賀市、美川、金沢港、福浦港、石川とぎ、門前町、輪島市、すずし、内浦、七尾西湾、七尾、ななか、の12漁協に及び加賀、能登外浦、能登内浦とほぼ県全域に広がっている。(図1)

2. 漁業の概要

会員の漁業は、底引き網、巻き網、刺し網、延縄、イカ釣り、定置網、カキ養殖など多くの漁業種類にわたっている。

年齢構成をみると、20代3名、30代17名、40代36名、50代13名、60代4名(表1)と一頃に比べるとやや高齢化してきており、「あいつも年をとって来たなあ」と実感するこの頃である。また、漁協の理事に就任している者13名、監事に就任している者3名と漁業士会も年輪を刻んで来ている。

石川県は昔から、地域や漁業種類の違いで漁業紛争がよく起きるところで、この顔の見える漁業士会の仲間が漁業紛争の緩衝剤となりえるならばと、大いに期待するものである。

漁業士会の運営は、事務局を県漁連指導課に置き、1会員、年5,000円の会費と、県漁連の助成金等で事業費を賄っている。また、所属する漁協ごとに原則1名の役員を選出してもらい、この中から会長1名、副会長2名を互選して、ほかの方は理事または、会計監事に就任し、年1回の通常総会、年2,3回の役員会で事業を計画して活動を進めている。

表1 石川県漁業士会年齢構成等

平成14年12月現在

年代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
会員数	3名	17名	36名	13名	4名	73名
漁協役員数	0名	1名 (理1)	7名 (理6,監1)	6名 (理4,監2)	2名 (理2)	16名 (理13,監3)

* 漁協役員数の()書は役員の内訳(理は理事、監は監事)

3. 実践活動課題選定の動機

漁業士会結成当時の平成2年度、3年度は、親睦と交流会を中心に、研修会や各種会議への出席、新潟県、福井県、京都府漁業士会との意見交換会等の活動をしていたが、漁業士全員が一堂に会することが難しく、そのため漁業士会が何をしているのかわからない。これでは、会そのものが有名無実となりかねない懸念も憂慮されたことから、会として取り組めるテーマを絞って会員に周知し活動しようということになった。

そこで12年間の漁業士会活動で取り組んだ二つの活動を、挫折も含めて振り返りたいと思う。

(1) 県下一斉統一休漁日の取り組みについて

平成4年3月の役員会で、県下一斉統一休漁日の取り組みについての協議が始まった。

県下の消費地市場では日曜日が休市のため、漁協等の産地市場では、土曜日が休市となっているのがほとんどだが、県下全部の漁業者が休漁しているわけではない。石川県全部の漁業者が一斉に休漁する日を作ろうじゃないか、どの漁業種類であっても通常なら出漁できる日に、1年に1度だけ石川県の海を休ませようということになった。

ちょっといい加減ではあるが、一致団結の願いも込めた統一(とういつ、10と1)の語呂合わせで10月1日を県下一斉統一休漁日にしようということになった。

(2) お魚提供ボランティアの取り組みについて

平成5年4月の役員会では県下一斉統一休漁日の10月1日をアピールするため、この日に何かボランティア活動をしようということになり、自分たちの獲った魚を老人ホームや養護学校へ提供し、社会福祉活動をしようということになった。

4. 実践活動状況及び成果

(1) 県下一斉統一休漁日の取り組みについて

平成4年以来、総会や役員会等で実現に向けて具体的な取り組み方を何度も協議し、県下の漁協組合長で構成する石川県漁業協同組合長協議会の総会場で提案したり、アンケート調査の実施、ポスターの製作（写真1）と県下の漁業者に働きかけを行った。

しかしながら、消費地市場で月2回の水曜日休市が導入され、これに伴い産地市場でも月2回の火曜日休市が導入され、休漁せざるを得ない日が増えたことにより、残念ながら、合意を得ることが出来なかった。

また、漁業士会の会員だけは、活動の精神を残すためにも、10月1日を「石川県漁業士会自主統一休漁日」にしようと協議を続けたが、会員には、雇用乗組員も多く、また、船主であっても、所属漁協の中にあって自分の船だけが休漁することは難しいということになった。

(2) お魚提供ボランティアの取り組みについて

平成5年以来、自分たちの獲れたての魚を社会福祉施設へ提供しようと具体的な方法を検討したが、10月1日にこだわること、また、当日確実に県下で漁獲された新鮮な魚を施設に搬入することを前提とすると、県下の魚が多く集まる県漁連金沢港市場で、前夜または当日、一番良かろうと思われる魚を購入し、搬入を引き受けた役員が施設にお届けすることとした。

平成5年の老人ホーム「陽風園」への提供を皮切りに、昨年の「あすなろ学園」・「しお子供の家」・「聖霊愛児園」への提供まで10年間毎年かがさずに甘エビやカレイ、スルメイカなどを届けている。（写真2、表2）



写真 1



写真 2

「石川整肢学園」では、生徒が全員集まって来られ、生徒代表のお礼の言葉や後日の生徒会長のお礼の手紙を頂いた。

「ひろびろ作業所」では、体の不自由な方々が作った木製のティッシュ入れを頂いた。

「明和養護学校」からは、ナホトカ号重油流出事故の時に、義捐金を送っていただ

いた。

「あすなろ学園」では、写真を撮ろうとした時、一人の子供さんから「写真、撮らんといて」と言われたが、後で、先生から「家庭の事情で親元から離れて暮らしている子供たちで、いろんな事情があるんです。」と教えられたのでした。

このボランティアでは、私達の方が大きな贈り物を頂いていると実感している。

表2 お魚提供ボランティアの過去の実績

年 度	ボ ラ ン テ ィ ア 先
平成5年度	社会福祉法人 陽風園老人ホーム
平成6年度	社会福祉法人 石川整肢学園
平成7年度	社会福祉法人 ひろびろ作業所
平成8年度	石川県立 明和養護学校
平成9年度	石川県立 七尾養護学校
平成10年度	社会福祉法人 あての木園特別養護老人ホーム
平成11年度	社会福祉法人 児童養護施設あすなろ学園
平成12年度	社会福祉法人 児童養護施設あすなろ学園
平成13年度	社会福祉法人 児童養護施設あすなろ学園 社会福祉法人 児童養護施設聖霊愛児園
平成14年度	社会福祉法人 児童養護施設あすなろ学園 社会福祉法人 児童養護施設聖霊愛児園 社会福祉法人 児童養護施設しお子供の家

5. 波及効果

漁業士会として、いろいろな会合に会員が出席するようになり、会員が漁業の現場で望むことを、発言する機会が増えつつあった。

県下一斉統一休漁日を念頭に置いてもらうために、平成6年10月1日に、県知事をはじめ県漁連会長と私達が懇談する「石川県フィッシャーメンズフォーラム”94」が企画された。この時は、事前に意見表明を事務局の方で作成したものを読み上げるといった堅い懇談会に終わったような感があったが、平成7年、8年と続けて開催されたときには、私達も、自由闊達に意見を表明し、この中から、漁業士会会員から出された意見が、県漁連の事業の中に採り入れられ、現在、県下漁業者が大いに利用している事業も誕生した。

その一つが、平成7年に輪島市の会員から出された「使い捨ての魚箱の経費がバカにならない。魚価向上が望めない現在、コスト削減を目指すべきであり、魚箱のリサイクルを考えてはどうか。」というものであった。

もう一つが、平成8年に石川とぎの会員から出された「民間の会社では、48時間先まで予報地点を絞って、風向、風速、波高をFAXで取り出せるサービスしている。これを利用すると出漁計画や、安全操業に役立つが、契約料が高い。多くの人を利用すれば、少ない負担で済むのでは。」というものであった。

この時の会員の発言が、きっかけとなり、魚箱のリサイクルについては、当時、県内各産地市場、消費地事情によって多種多様な魚箱が流通しており、これを規格化、集約化す

合の内容に魅力がない。」といった声がある。

本日の漁業士会活動発表は、より多くの漁業関係者に私達漁業士会のことを知っていただく良い機会であると感謝したい。これからも、漁業士同士の交流を通して、地域間の横の連携をさらに深め、多くの仲間が集まりやすい雰囲気をつくり、多くの仲間の意見を聞き、魅力ある活動を模索していきたいと思う。